

あなたもチャレンジ 家庭菜園



園芸研究家
成松次郎

カボチャ 強健で育てやすい

生育適温は17〜20度でウリ科野菜の中では比較的低温に強く、強健で病害虫も比較的少ない野菜です。ビタミン類、カリウム、カルシウムなどを豊富に含み、特に免疫力を高めるβ-カロテン含量は野菜の中ではトップクラスです。

図1 苗作り



図2 畑の準備

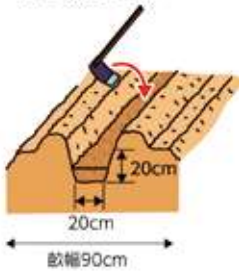


図3 保温

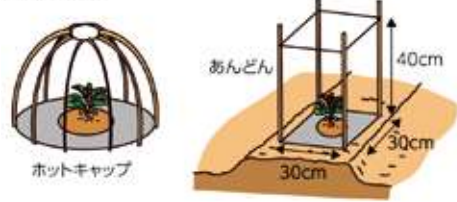


図4 整枝

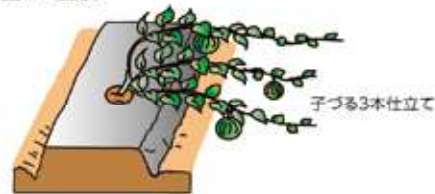


図5 人工受粉



図6 収穫



「苗作り」種は一般地では3月末〜4月中旬に12cmポットに3粒まき、本葉1枚の頃生育の良いものを残して間引いて1本にし、本葉4、5枚まで育てます(図1)。

「畑の準備」植え付け2週間前に1平方m当たり苦土石灰100gを全面にまいて耕します。次に、畝幅(ベッド幅)90cmで、中央に深さ20cm程度の溝を掘ります。この溝1m当たり化成肥料(NPK各成分12%程度)100gと堆肥2、3kgとを施し、溝を埋め戻して高畝を作ります(図2)。

「植え付け」遅霜の心配のない4月末〜5月中旬が植え付け適期で、株間90cm程度に植え穴を掘り、穴に十分水を注いで植え付けます。遅霜の恐れのあるときは、ポリフィルムでトンネル、ホットキャップやあんどんを作り、保温します(図3)。

「整枝・交配」本葉5枚くらいで摘

心し、生育の良い子づるを3本伸ばし、他の子づるはかき取ります(子づる3本仕立て)。伸びた子づるは重ならないように配置します(図4)。着果節位は10節前後を目標にし、雄花開花口の早朝に花粉を雌花の柱頭になすり付け、受粉(人工受粉)させます(図5)。

「追肥・敷きわら」追肥は果実がこぶし大の頃、化成肥料を1株当たり30g程度、株元から離してばらまきます。茎葉と果実への泥はね防止のため、敷きわらや不織布など透水性の資材を敷きます。

「収穫」開花後45〜50日たって果実に爪が立たないくらい堅くなった頃が収穫適期です。収穫後7〜10日、風通しの良い場所に置いておくと甘味が増します(図6)。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

学校給食などへ野菜や果物の出荷者募集!

JAレーク伊吹では、計画的でJAの指導に基づいて生産された野菜や果物の買取販売を行っています。主な販売先は学校給食と近隣のスーパーやJAの直売所です。出荷の条件等につきましては下記までお問い合わせください。

ど自慢の美味しい野菜や果物を、子どもたちや地域の方に味わってもらいませんか。

- 学校給食：キャベツ・ネギ・白菜・キュウリ・ナス・大根・ホウレン草・カブ等
- スーパーまたは直売所：多品目のため、お問い合わせください。

注意事項：学校給食出荷には規格がありますのでお問い合わせください。また、引き受け数量に限りがある為、それを超える場合は市場出荷等をご提案させていただく場合がございます。

お問い合わせ先／特産振興課 ☎63-2108(8:30~17:00)

☑メールでのお問い合わせも受付しています。

当JAホームページのお問い合わせフォームへお寄せください(お返事に時間がかかる場合があります)

